

2022年度 日本気象学会東北支部第2回理事会 議案

日時：2023年3月23日（木）

議 題

1. 2023年度秋季大会実行委員会の設置	2ページ
2. 2022年度事業報告	2ページ
3. 2022年度会計報告	5ページ
4. 2022年度会計監査報告	6ページ
5. 2023年度事業計画案	
(1) 支部理事会	7ページ
(2) 支部だより	7ページ
(3) 支部気象講演会	7ページ
(4) 支部気象研究会	8ページ
(5) 日本気象予報士会東北支部と連携した活動	8ページ
(6) 日本気象学会小倉奨励賞などへの応募	8ページ
6. 2023年度予算案	9ページ
7. 検討事項	
(1) 支部長会議の報告	10ページ
8. その他 事務局から	11ページ

資 料

役員名簿（第33期2022年度）	12ページ
東北支部規則	13ページ
東北支部細則	14ページ

議題1. 2023年度秋季大会実行委員会の設置

2023年度日本気象学会秋季大会実行委員会を2月に設置した。

日本気象学会東北支部2023年度秋季大会実行委員会委員

※敬称略、職名およびあいうえお順

委員長	：小出 寛	(仙台管区気象台長)
副委員長	：早坂 忠裕	(東北大学大学院理学研究科教授)
委員	：森本 真司	(東北大学大学院理学研究科教授)
	山崎 剛	(東北大学大学院理学研究科教授)
	伊藤 純至	(東北大学大学院理学研究科准教授)
	岩渕 弘信	(東北大学大学院理学研究科准教授)
	杉山 公利	(日本気象予報士会東北支部長)
	関口 元朝	(日本気象協会東北支社)
	立原 秀一	(仙台管区気象台気象防災部長)
	石崎 士郎	(仙台管区気象台気象防災部地球環境・海洋課長)
	蒔苗 仁	(仙台管区気象台気象防災部防災調査課調査官)
	瀧上 隆雄	(仙台管区気象台気象防災部地球環境・海洋課沿岸防災調整官)

2023年度日本気象学会秋季大会実行委員会 第1回資料 参照

議題2. 2022年度事業報告

1 2022年度支部活動報告

1) 東北支部だより発行

■第95号 (2022年10月発行)

- ・ 支部長就任あいさつ
- ・ TOPIC「地域の過去気象の再現と気候の将来予測」：山崎 剛氏 (東北大学)
- ・ 2021年度 日本気象学会東北支部第2回理事会 議事抄録
- ・ 2022年度 日本気象学会東北支部第1回理事会 議事抄録
- ・ 日本気象学会東北支部第33期役員選挙結果について (投票結果の公示)
- ・ 日本気象学会東北支部気象講演会のご案内
- ・ 東北支部「気象研究会」の開催案内と講演募集
- ・ 事務局からのお知らせ

■第96号 (2023年3月発行予定)

- ・ TOPIC「東北地方における気象業務の始まりについて～気象の観測を中心に～」
：立原 秀一氏 (仙台管区気象台気象防災部長)
- ・ 報告1「2022年度 日本気象学会東北支部気象研究会」
：日本気象学会東北支部事務局

- ・ 報告2「2022年度 日本気象学会東北支部気象講演会」
：盛岡地方気象台
- ・ 2022年度日本気象学会東北支部臨時理事会 議事抄録
- ・ 事務局からのお知らせ

2) 東北支部気象講演会

日 時：2022年12月3日（土）14時00分～16時00分
 会 場：岩手県自治会館（オンライン配信も実施）
 テーマ：「気候変動と適応策～最新の科学的知見と岩手県の暮らしや産業～」
 講演者：卜部 佑介氏（仙台管区気象台気象防災部地球環境・海洋課）
 晴山久美子氏（岩手県環境生活部環境生活企画室）
 参 加：68名（うち会場参加16名）
 主 催：日本気象学会東北支部
 共 催：盛岡地方気象台
 後 援：岩手県・盛岡市・岩手大学・日本気象協会東北支社、日本気象予報士会東北支部・地球ウォッチャーズ-気象友の会-

3) 東北支部気象研究会

仙台管区気象台東北地方調査研究会との共催
 日 時：2022年12月12日（月）10時30分～17時15分
 会 場：仙台第3合同庁舎4階第1会議室（仙台管区気象台）
 講 演：18題
 参加者：30名（会場参加のみカウント、Zoomによるオンライン配信も実施）

気象研究会の発表演題、著者（敬称略、発表者に○）

なお紙面の都合上、仙台管区気象台東北地方調査研究会の題目は省略

- ・ 令和4年8月3日の青森の大雨の解析 - I 環境場の解析
○山口純平（青森地方気象台）
- ・ 2022年8月3～10日の青森県の降水と水蒸気輸送
○谷田貝亜紀代、前田未央（弘前大学大学院理工学研究科）
- ・ 日本域領域再解析(RRJ-Conv.)における線状降水帯抽出の統計解析
○松島沙苗、伊藤純至（東北大学大学院理学研究科）、福井真（気象研究所、東北大学大学院理学研究科）、廣川康隆（気象研究所）
- ・ 2013年8月9日に秋田県・岩手県で発生した線状降水帯の数値シミュレーション
○小野佳祐、伊藤純至（東北大学大学院理学研究科）

- ・メソアンサンブルのクラスタリングによる決定論的サブシナリオ構築の検討
○森川浩司、池田翔、小笠原敦（仙台管区気象台予報課）、小野耕介（気象研究所）
- ・メソアンサンブル予報を用いた決定論的予測手法の改善 -アンサンブルスプレッドの改良による複数シナリオの改善-
○池田翔、小笠原敦、森川浩司（仙台管区気象台予報課）、小野耕介（気象研究所）
- ・日本域領域再解析のアンサンブルメンバーを用いた2019年台風第19号に伴う大雨の解析
○廣瀬大河、伊藤純至、岩崎俊樹（東北大学大学院理学研究科）、福井真（気象研究所、東北大学大学院理学研究科）
- ・気象庁メソアンサンブル予報を用いた凍霜害ガイダンス開発に関する研究
○池田翔（仙台管区気象台）、山崎剛（東北大学）

また、日本気象学会東北支部発表賞の今年度の受賞者は以下のとおり。

- 小野佳祐（東北大学）
「2013年8月9日に秋田県・岩手県で発生した線状降水帯の数値シミュレーション」
- 松島沙苗（東北大学）
「日本域領域再解析(RRJ-Conv.)における線状降水帯抽出の統計解析」

4) 支部理事会

- ・第1回（オンライン開催 2022年7月6日）
- ・臨時理事会（書面開催 2022年12月28日～2023年1月11日）
- ・第2回（オンライン開催 2023年3月23日）

5) 日本気象予報士会東北支部と連携した活動（気象サイエンスカフェ東北）

昨年度同様に『本行事は対面で行うことが重要』との方針の中、年度末の開催も含め対面型のイベント開催の可能性を模索したが、年明け以降の新型コロナウイルス第8波の感染拡大により、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を中止することとした。

6) 日本気象学会小倉奨励賞の推薦

- ・推薦なし

議題3. 2022年度会計報告 (2023年2月28日時点)

〔〔支部一般会計〕 (2022年4月1日～2023年2月28日)

	予算額	決算額	差異 [予算-決算]
I 収入の部			
事業活動収入			
本部交付金			
一般交付金(仮名)	*1532,400円	0円	532,400円
普及啓発活動への助成	*140,000円	0円	40,000円
気象予報士会東北支部分担金	*220,000円	0円	20,000円
前期繰越金	440,089円	440,089円	0円
事業収入(広告料等)	0円	0円	0円
雑収入			
預金利息	5円	5円	0円
事業活動収入計(1)	1,032,494円	440,094円	592,400円
II 支出の部			
事業活動支出			
事業費支出			
支部気象講演会	250,000円	167,240円	82,760円
支部気象研究会	100,000円	12,636円	87,364円
支部だより	200,000円	99,990円	100,010円
気象サイエンスカフェ東北	60,000円	0円	60,000円
ホームページ運営費	15,000円	15,000円	0円
管理費支出			
支部理事会	85,000円	0円	85,000円
支部役員選挙	30,000円	24,757円	5,243円
事務費	10,000円	0円	10,000円
事業活動支出計(2)	750,000円	319,623円	430,377円
III 予備費支出			
予備費支出	282,494円	400円	282,094円
予備費支出計(3)	282,494円	400円	282,094円
当期収支 (A)=(1)-(2)-(3)	0円	120,071円	
次期繰越額 (A)-(残りの支出予定額)	0円	20,071円	

*12022年度は、2020年以降コロナ禍のため支部活動が縮小していたとして、全国的に本部からの一般交付金および普及活動への助成は無かった。

*22022年度は対象事業(気象サイエンスカフェ東北)を実施しなかった。


黄色塗りつぶしは、今年度まだ事業(支出予定)が残っているもの

議題4. 2022年度会計監査報告（2023年3月13日時点）

預金通帳、領収書を照合の結果、誤りが無いことを認めます。

2023年3月14日

日本気象学会東北支部会計監査

島津勝也 

議題5. 2023年度事業計画案

(1) 東北支部理事会の開催

- ・例年は年2回（5～6月、3月頃予定）開催している。
- ・議論が必要な場合は、適宜臨時理事会を開催する。

(2) 東北支部だより発行

- ・年2回発行(第97号、98号)の予定。
- ・作業簡略のため、発行作業は原稿のとりまとめまでとし、編集、印刷及び会員への発送は2022年度と同様に業者発注とする。

(3) 東北支部気象講演会

【概要】

日 時：未定
会 場：未定
テーマ：未定

- ・2023年度は秋田県で開催予定、テーマ等は未定。今後準備を進めていく。

2015年度以降の開催状況

年度	開催地	講演者		
2015年度	仙台市	岩崎 俊樹 (東北大学)	小森 大輔 (東北大学)	廣川 康隆 (仙台管区气象台)
2016年度	盛岡市	山本 浩之 (福島大学)	名越 利幸 (岩手大学)	
2017年度	秋田市	和田 幸一郎 (秋田地方气象台)	本谷 研 (秋田大学)	
2018年度	山形市	小杉 健二 (新庄雪氷実験所)	川瀬 宏明 (気象研究所)	
2019年度	弘前市	加藤 輝之 (気象大学校)	木所 英昭 (東北区水産研究所)	
2020年度	仙台市 (web開催)	岩井 弘樹 (仙台管区气象台)	早坂 忠裕 (東北大学)	
2021年度	福島市 (web開催との ハイブリッド)	小野寺 晃一 (福島地方气象台)	安達 義輝 (福島県農業総合セ ンター)	吉田 龍平 (福島大学)
2022年度	盛岡市 (web開催との ハイブリッド)	ト部 佑介 (仙台管区气象台)	晴山 久美子 (岩手県)	

方針：気象講演会は原則として「持ちまわり」で開催する。ただし、他のイベント等との同年開催については配慮を行うとともに、会員等からの開催・運営の意向が

あった場合、宮城県等他県での開催も可能とし、担当理事がこれを調整する。なお開催地を変更する場合は、準備の都合上、開催前年度の第2回理事会前（例年2月～3月）に東北支部事務局へ通知することとする。

（4）東北支部気象研究会

例年仙台管区气象台との共催で開催しているが、2023年度は、秋季大会を仙台市で開催するため、本年度に限り開催を休止する。

（5）日本気象予報士会東北支部と連携した活動（気象サイエンスカフェ東北）

- ・第11回気象サイエンスカフェ東北を、仙台市で開催する。テーマや講師等は、日本気象予報士会東北支部と連携して検討を行う。

【概要】

日 時：未定

会 場：未定

テーマ：未定

（6）日本気象学会小倉奨励賞などへの推薦

議題6. 2023年度予算案

〔支部一般会計〕（※マイナスの金額には、△印を付した。）

	2023年度 予算額	2022年度 予算額	予算増減額 [2023年—2022年]	2022年度 決算額
I 収入の部				
事業活動収入				
本部交付金				
一般交付金(仮名)	*1530,000円	*1532,400円	△2,400円	0円
普及啓発活動への助成	40,000円	*140,000円	0円	0円
気象予報士会東北支部分担金	*220,000円	*220,000円	0円	0円
前期繰越金	*320,071円	440,089円	△420,009円	440,089円
事業収入(広告料等)	0円	0円	0円	0円
雑収入				
預金利息	5円	5円	0円	5円
事業活動収入計(1)	610,076円	1,032,494円	△442,418円	440,094円
II 支出の部				
事業活動支出				
事業費支出				
支部気象講演会	240,000円	250,000円	0円	167,240円
支部気象研究会	0円	100,000円	0円	12,636円
支部だより	200,000円	200,000円	0円	99,990円
気象サイエンスカフェ東北	60,000円	60,000円	0円	0円
ホームページ運営費	15,000円	15,000円	0円	15,000円
管理費支出				
支部理事会	85,000円	85,000円	0円	0円
支部役員選挙	0円	30,000円	△30,000円	24,757円
事務費	10,000円	10,000円	0円	0円
事業活動支出計(2)	610,000円	750,000円	△30,000円	319,623円
III 予備費支出				
予備費支出	76円	282,494円	△282,494円	400円
予備費支出計(3)	76円	282,494円	△282,494円	400円
当期収支差額 (A)=(1)-(2)-(3))	0円	0円	0円	0円

*1一般交付金は、3/9時点の会員数から150名×1,200円+35万円を見込む。

*22023年度気象予報士会東北支部分担金は予定。

*3 想定される繰越額は暫定。2/28時点での収支差額を予備費の支出項に暫定的に入れている。

黄色塗りつぶしは、2022年度まだ事業(支出予定)が残っているもの(2022年度決算額)、それに伴い確定されないもの(2023年度予算額・予算増減額)。

議題7. 検討事項

(1) 支部長会議の報告

日時：令和5年1月24日(火) 13時～15時

場所：オンライン

出席：本部理事、各支部長等

○概要

- ・ 3つの議題（①支部活動報告・計画、②秋季大会取組状況、③社会・地域から求められる気象学会像や活動について）を議論した。
- ・ ①支部活動報告・計画では、支部研究会を開催しているところでは対面とオンライン参加のハイブリッド形式で開催しており、ハウリングを起こさないように工夫している報告もあった。また、支部への交付金については、4月時点で交付すべきとの意見があり、支部の意見を聞いた上で、本部のほうで話し合いたいとのことであった。
- ・ ②秋季大会取組状況では、本年度の札幌での秋季大会が概ね成功した旨の報告があった。講演企画委員会からは、参加者アンケートに生の声があり、是非読んでいただきたいとのことであった。札幌大会の口頭発表ではオンライン配信をしなかったが、オンライン配信して欲しかったという声もあり、当支部からは今年秋の仙台大会の準備進捗状況を説明し、札幌大会の経験も参考に進めていくことを述べた。
- ・ ③社会・地域から求められる気象学会像や活動については、気象学会がどのように裾野を広げていくかという観点からのコメントや、教育と普及という観点からのコメントが多かった。SDGSの専門家がない、気候変動について教えられないなど、学校教育で教えられていないところ、不足しているところを学会が指針を示して補っていくことや、支部運営について気象台のリソースが減少しつつあるとの意見もあった。

議題8. その他（事務局から）

① 東北支部会員数（個人会員）

2023年3月9日現在

県名	会員数	2022. 06. 28
青森県	20名	19名
岩手県	10名	10名
秋田県	12名	12名
山形県	12名	12名
宮城県	74名	78名
福島県	22名	21名
合 計	150名	152名

2名減

支部メーリングリスト登録者数

2023年3月9日現在

県名	登録者数	2022. 06. 28
青森県	18名	17名
岩手県	7名	7名
秋田県	11名	11名
山形県	10名	10名
宮城県	70名	74名
福島県	18名	17名
合 計	134名	136名

2名減

② 旅費等について

交通費については

青森は 22,900円〔11,420円×2〕

弘前は 23,300円〔11,640円×2〕

秋田は 21,100円〔10,560円×2〕

盛岡は 13,600円〔6,790円×2〕

山形は 2,400円〔1,170円×2〕

福島は 2,700円〔1,340円×2〕

仙台、岩沼は片道500円をお願いします。

※100円未満の端数は切り上げています。

なお、支部活動における旅費の支給は、上記に準ずるものとします。

消費税引き上げ（2019年10月1日）による運賃・料金の改正を適用。

日本気象学会東北支部第33期2022年度役員名簿

2023年3月23日現在

支部長	小出 寛	仙台管区気象台長
常任理事	菅原 敏	宮城教育大学教授（理科教育講座）
	杉山 公利	日本気象予報士会東北支部長
	立原 秀一	仙台管区気象台気象防災部長
	中野 裕	日本気象協会東北支社総務課長
	橋本 竜	仙台管区気象台気象防災部予報課長
	森本 真司	東北大学大学院教授（理学研究科）
	山崎 剛	東北大学大学院教授（理学研究科）
地方理事	中舘 明	盛岡地方気象台長
	谷田貝 亜紀代	弘前大学大学院教授（理工学研究科）
会計監査	島津 勝也	仙台管区気象台気象防災部次長
幹事	伊藤 純至	東北大学大学院准教授（理学研究科）
	岩淵 弘信	東北大学大学院准教授（理学研究科）
	淵上 隆雄	仙台管区気象台気象防災部地球環境・海洋課 沿岸防災調整官
	蒔苗 仁	仙台管区気象台気象防災部防災調査課 調査官

日本気象学会東北支部規則

昭和 32. 5. 26	成立
昭和 32. 7. 5	第 8. 11 条を改正、 第 15～19 条を追加
昭和 40. 11. 18	第 8 条を改正
昭和 56. 10. 12	第 2 条を改正
昭和 60. 3. 19	第 9 条を改正
平成 2. 6. 21	第 8 条を改正
平成 6. 2. 28	第 8. 9. 12. 14. 18 条を改正
平成 9. 6. 3	第 2 条を改正
平成 22. 6. 11	第 8 条を改正
平成 25. 6. 20	第 1. 2. 18 条を改正
平成 27. 3. 12	第 18 条を改正
平成 28. 2. 29	第 13 条を改正

- 第 1 条 本支部は公益社団法人日本気象学会東北支部という。
- 第 2 条 本支部は事務所を仙台市宮城野区五輪一丁目 3 番 15 号第 3 合同庁舎、仙台管区気象台内に置く。
- 第 3 条 本支部は東北 6 県に在住する全ての日本気象学会員で構成される。
- 第 4 条 本支部は日本気象学会の定款の範囲内で事業を行うが、特に支部会員の研究の奨励、推進ならびに相互の連絡につとめることを目的とする。
- 第 5 条 本支部は前条の目的を達成するために、講演会ならびに学術的会合の開催、その他この支部の目的にかなう事業を行う。
- 第 6 条 本支部の事業年度は毎年 4 月 1 日にはじまり、翌年 3 月 31 日に終わる。
- 第 7 条 本規則の実行に必要な細則は、支部理事会の決議によって別に定める。
- 第 8 条 本支部に次の役員を置く。
理事 8～11 名（常任理事 2～8 名内支部長 1 名）、会計監査 1 名。
- 第 9 条 理事および会計監査は支部会員の選挙によって定める。
ただし、任期中に欠員が生じた場合は細則の定めるところによって補充する。
- 第 10 条 支部長および常任理事は理事の互選によって理事の中から定める。
- 第 11 条 支部長はこの支部を代表して会務を総理する。支部長に事故があるとき、または欠けたときは、支部長があらかじめ指名した常任理事がその職務を代行する。
- 第 12 条 理事はこの支部の会務を行う。会計監査は支部の会計を監査する。
- 第 13 条 支部長は必要に応じ、会務の一部を処理するため幹事（3～4 名）を置くことができる。
- 第 14 条 理事および会計監査の任期は 2 年とする。ただし、重任は妨げない。
理事および会計監査は任期満了後でも後任者の就任するまでその職務を行う。
- 第 15 条 支部長は毎年 1 回および必要に応じて理事会を招集する。
- 第 16 条 理事会は過半数の理事の出席がなければ成立しない。
- 第 17 条 支部長は次の事項を理事会の承認を得て会員に報告しなければならない。
（1）事業計画および収支決算
（2）その他理事会において必要と認められた事項
- 第 18 条 本支部の経費は本部交付金（支部強化基金を含む）と寄付金とする。
- 第 19 条 この規約は理事の 3 分の 2 以上の賛成を得なければ変更することができない。
- 付則
- 第 20 条 この支部の設立当初の役員は設立準備会でこれを選任する。

以上

日本気象学会東北支部細則

昭和 33. 7. 5	成立
昭和 40. 11. 18	1 項を改正
昭和 41. 3. 15	7 項を改正
昭和 60. 3. 19	12、13、14 の各項を改正
平成 6. 2. 28	1、8、9、12、13 の各項を改正
平成 22. 6. 11	1 項を改正
平成 27. 3. 12	1 項を改正
令和 1. 7. 10	日本気象学会東北支部発表賞の条項を追加

1. 理事選挙

- 1 理事は東北地区在住の会員より 8～11 名選出する。このうち在仙理事 5～8 名、地方理事若干名とする。
会計監査は東北地区在住の会員より 1 名を選出する。
- 2 次期理事の定数および在仙・地方別理事数は理事会で決定する。
- 3 候補者は理事会の推薦者および立候補者とし、投票締切日の 20 日前までに決定のうえ、会員に周知させるものとする。
- 4 立候補者は投票締切日の 30 日前まで支部長宛に届け出るものとする。
- 5 投票は無記名連記とする。ただし、連記数は第 2 項の決定による在仙・地方別理事数とする。
- 6 投票は文書投票とする。
- 7 有効投票により、各地区別に投票の多い順に次期理事を決定する。同数の場合は年少者を上位とする。ただし、得票数が有権者の 10 分の 1 に満たない者は理事に就任することができない。次点者も同様とする。
- 8 当選者が理事および会計監査就任を辞退した場合は次点者を繰り上げる。
- 9 理事および会計監査に欠員が生じた場合の補充は次点者をあてる。
- 10 開票は常任理事立ち会いのもと行う。
- 11 開票の結果は会員に報告する。
- 12 理事および会計監査に欠員を生じ、第 9 項による補充ができない場合は、理事会の推薦によって補充する。
- 13 第 9 項または第 12 項による補充理事および会計監査の任期は前理事および会計監査の残存期間とする。
- 14 そのほか選挙にあたって必要事項は支部長が決定し、事後に理事会に報告する。

2. 日本気象学会東北支部発表賞

- 1 日本気象学会東北支部発表賞（以下「支部発表賞」という。）受賞者を選定するため、支部発表賞候補者推薦委員会を設ける。
- 2 委員会は支部常任理事および支部長が指名した支部会員をもって組織する。
- 3 委員会は、支部研究発表会において優れた講演を行った支部会員から、原則として 2 名程度を選び、受賞者を支部理事会に推薦する。原則、半数以上を学生会員とする。ただし、委員は受賞対象とはならない。
- 4 支部発表賞は賞状・副賞（賞金）とし、これを受賞者に贈呈する。

以上